

ら、非農家より多く摂っている。非農家の方が多いのは海藻類、獣鳥鯨肉類、卵類、乳・乳製品からである。特に乳・乳製品からのカルシウムは農家の倍以上である。

(5) ビタミン

ビタミンA——ビタミンA源の大部分を占める緑黄色野菜と卵類からの摂取が非農家が農家より相当多い。

ビタミンB₁——非農家は米、野菜、果実類、獣鳥鯨肉類、卵類、乳・乳製品類等からの摂取が農家より多く、農家は、いも類、豆類、その他の穀類等から僅かに多く摂っている。

ビタミンB₂——農家は米、いも類、その他の野菜、乾魚（魚肉ソーセージ等をふくむ）からの摂取量が多く、非農家は小麦、緑黄色野菜、生魚、肉、卵、乳類からの摂取が多い。しかし、獣鳥鯨肉類、卵類、乳・乳製品からの差が大きいため、非農家が、総量では多くなる。特に乳・乳製品からの差が大きい。

ビタミンC——農家はいも類およびその他の野菜からの摂取が多く、非農家は緑黄色野菜、果実類からの摂取が多い。

D 外食状況

近年における国民の食生活は年々外食の割合が高くなる傾向にあることが種々の統計によって指摘されている。

そのため、39年度調査の実施に当たって新たに外食の状況、外食率について調査を行なった。

1. 世帯業態別外食状況

全国平均の外食率は、11.8%である。世帯業態別に比べてみると第17表のとおり、常用勤労者世帯の外食率が15.2%で最も高く、次いで事業経営者世帯は10.9%、また、最も低いのは農業専業世帯の7.2%となっている。

2. 支出階層別外食状況

支出階層別の外食率は第17表のとおり、1人1カ月当たり家計上の現金支出額が高い階層ほど外食率が高い傾向を示しており、20,000円以上の階層(V)では18.8%であるに対し、5,000円未満の階層(I)は8.8%となっている。

なお、非農家世帯について支出階層別にみると各階層とも全国平均に比べて上回っており、20,000円以上の階層(V)は19.1%、最低の5,000円未満の階層(I)にあっても10.4%を示している。

3. 地域ブロック別外食状況

地域ブロック別に外食の状況をみると、最も外食率の高いのは七大都市の16.6%で、次いで東海・北陸・越の13.9%であり、最低は北海道・東北の8.3%となっている。

第17表 外食率

1) 世帯業態別外食摂取率

数字は%

総数	農家世帯			非農家世帯			
	専業世帯	常用勤労者 のいる世帯	その他の兼業 世帯	事業経営者 世帯	常用勤労者 世帯	日雇・家内 労働者世帯	その他の 世帯
11.8	7.2	9.8	8.2	10.9	15.2	9.9	9.9

2) 家計上の支出(家族1人1ヵ月当り)階層別外食摂取率

4,999円 以下	5,000円 ～9,999円	10,000円 ～14,999円	15,000円 ～19,999円	20,000円 以上
8.8 (10.4)	11.6 (12.5)	15.2 (15.7)	17.6 (18.1)	18.8 (19.1)

() は非農家世帯の場合

3) 地域別外食摂取率

七 大 都 市	北 海 道 ・ 東 北	関 東 ・ 甲 信	東 海 ・ 北 陸 ・ 越 前	畿 東 ・ 中 國	四 国 ・ 九 州
16.6	8.3	12.5	13.9	11.3	9.7